

2015年3月期 第2四半期 決算説明会



電気の居場所
をつくる仕事

365日の当たり前を支えるバッテリー、
GSユアサがつくっています。

いつだって、どこにいたって電気が使えるのは当然。
ついそう思ってしまいがちです。
でも、そこにはきっと、バッテリーがあります。
クルマ・バイクから、電車、太陽光発電、
そしてビルの緊急時の電源まで。
効率よくためつつ、求められるパワーを届ける。
そんな蓄電を100年以上 追求してきた私たちの技術は、
今では世の中のあらゆる場所へ広がっています。
暮らしや社会の当たり前をしっかりと支え、もっと便利にする。
電気の居場所をつくる仕事。私たちは、GSユアサです。
バッテリーが強くなれば、人も地球も強くなる。

GS YUASA

株式会社 GSユアサ 〒480-8630 愛知県豊田市長瀬町ノ広瀬之尾第1番地

2014年11月6日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

1.	業績の概要	P.03
2.	売上高・利益	P.04
3.	セグメント別業績	P.06
4.	連結業績予想	P.20
5.	貸借対照表	P.22
6.	設備投資・減価償却費・研究開発費	P.23
7.	キャッシュ・フロー計算書	P.24

1. 業績の概要

経営環境

国内経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減からの持ち直しのテンポが鈍く、一部に景気の低迷が見られるものの、良好な雇用環境などを背景に緩やかな回復基調で推移した。

世界経済は、米国では堅調に推移し、欧州でも緩やかな回復基調が継続している。タイでは政情不安による景気低迷の長期化が懸念されるものの、中国では景気悪化に歯止めがかかり、タイを除くアジア経済も底堅く推移した。

業績の概要

売上高は、車載用リチウムイオン電池の販売が増加、また前第2四半期よりタイのグループ会社を連結子会社化したことに伴う第1四半期分の計上により過去最高となった。

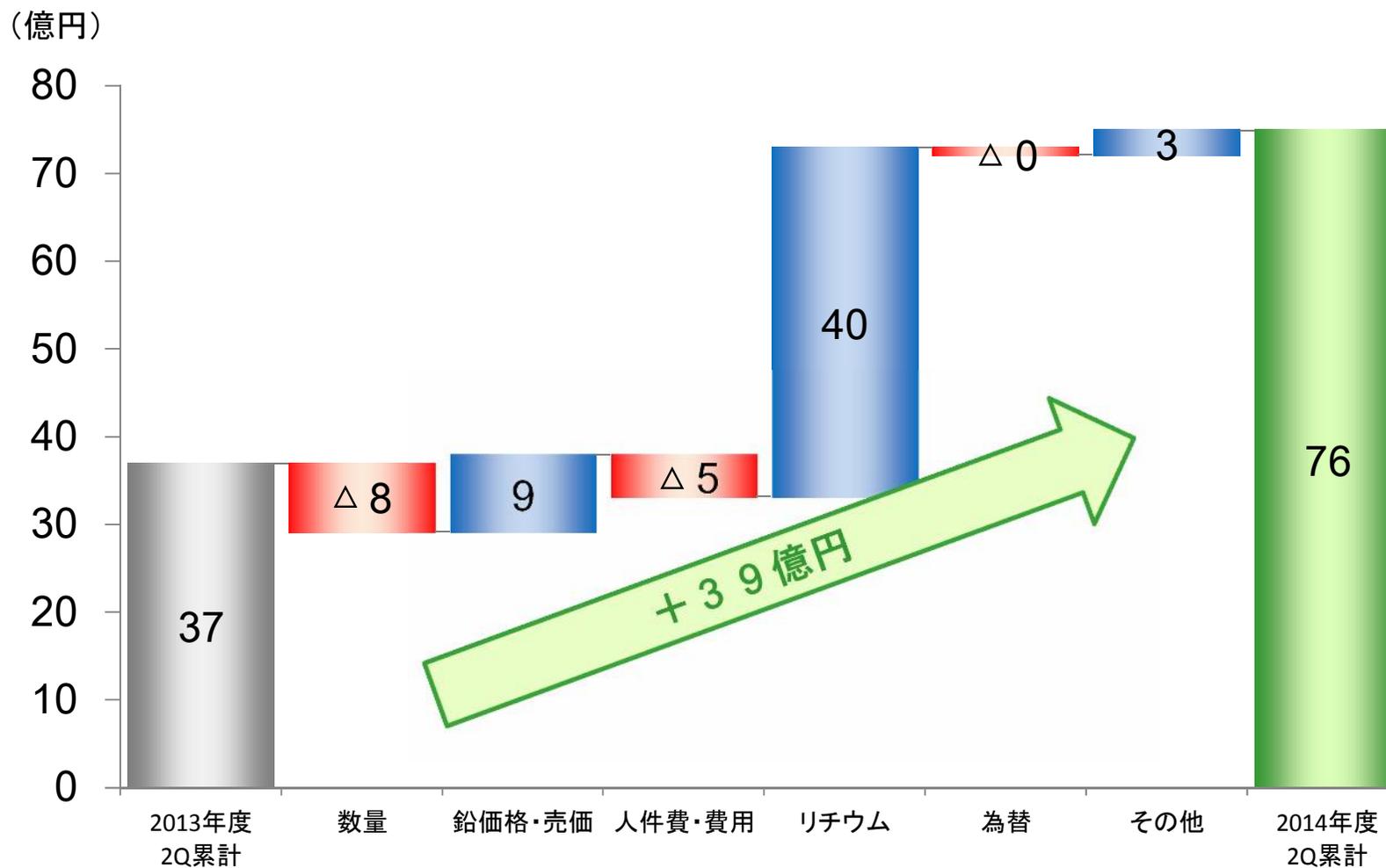
利益は、車載用リチウムイオン電池の販売増加に伴う利益改善に加え、東南アジアを中心とした販売の増加、為替の影響などにより、営業利益、経常利益、四半期純利益で過去最高となった。

2. 売上高・利益

(億円)

	2013年度 2Q累計	2014年度 2Q累計	増減 (前期比)
売上高	1,479	1,715 <small>過去最高</small>	+236 (+16.0%)
営業利益 (営業利益率)	37 2.5%	76 <small>過去最高</small> 4.4%	+39 (+103.3%) +1.9P
経常利益	51	88 <small>過去最高</small>	+37 (+73.3%)
特別利益	株式売却益等 29億円 33	1	-32
特別損失	リコール関連 30億円 35	4	-31
税前四半期純利益	49	85 <small>過去最高</small>	+36
法人税等	50	29	-21
少数株主損益	-32	4	+36
四半期純利益 (四半期純利益率)	30 2.1%	52 <small>過去最高</small> 3.0%	+22 (+70.7%) +0.9P
中間配当	0円/株	3円/株	+3円/株

営業利益増減要因



3. セグメント別業績

連結業績(第2四半期累計)

(億円)

	2013年度 2Q累計		2014年度 2Q累計		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)
国内自動車電池	254	6 (2.5)	239	5 (2.2)	-15	-1 (-0.3P)
国内産業電池電源	323	30 (9.3)	340	18 (5.2)	+17	-12 (-4.1P)
海外	763	42 (5.5)	853	52 (6.1)	+90	+10 (+0.6P)
リチウムイオン電池	68	-51 (-74.1)	244	-11 (-4.6)	+176	+40 (+69.5P)
その他	71	10 (13.5)	39	12 (31.4)	-32	+2 (+17.9P)
合計	1,479	37 (2.5)	1,715	76 (4.4)	+236	+39 (+1.9P)

3. セグメント別業績

連結業績(第2四半期)

(億円)

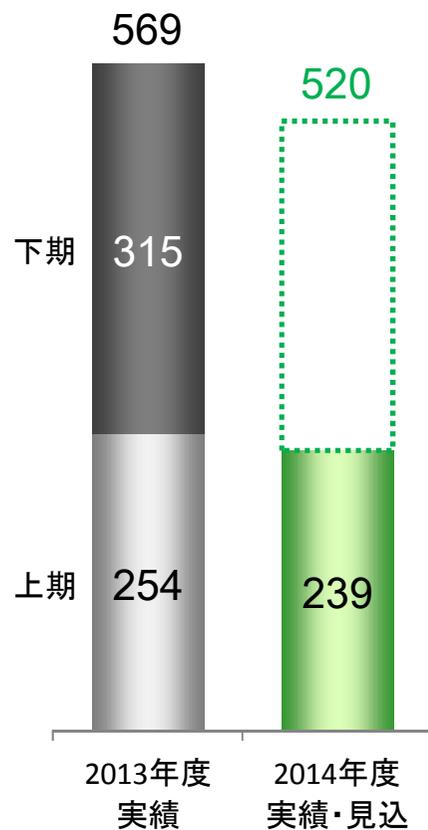
	2013年度 2Q		2014年度 2Q		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)
国内自動車電池	136	5 (4.0)	125	3 (2.2)	-11	-2 (-1.8P)
国内産業電池電源	186	24 (13.1)	189	15 (8.2)	+3	-9 (-4.9P)
海外	413	22 (5.3)	431	26 (5.9)	+18	+4 (+0.6P)
リチウムイオン電池	53	-34 (-64.3)	131	-5 (-3.9)	+78	+29 (+60.4P)
その他	35	4 (12.2)	16	6 (38.5)	-19	+2 (+26.3P)
合計	823	21 (2.6)	892	45 (5.0)	+69	+24 (+2.4P)

3. セグメント別業績

国内自動車電池

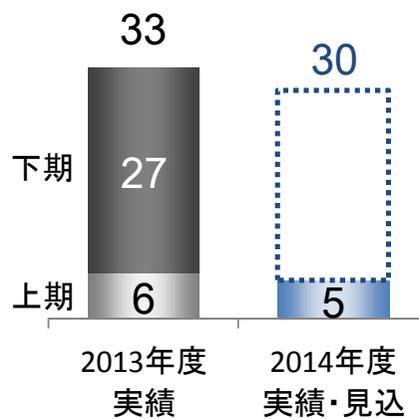
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度上期商況

- 新車向けアイドリングストップ車用鉛蓄電池の販売は好調
- 鉛価格上昇に伴い補修向け価格改定を実施
- 自動車関連部品(カーナビ等)の販売は減少

増減益要因

(億円)

数量	-3
鉛価格・売価	+2

国内自動車電池

➤ エコカー向けバッテリー拡販によるシェアアップ

《2015年度 目標》

販売個数 **900万個**

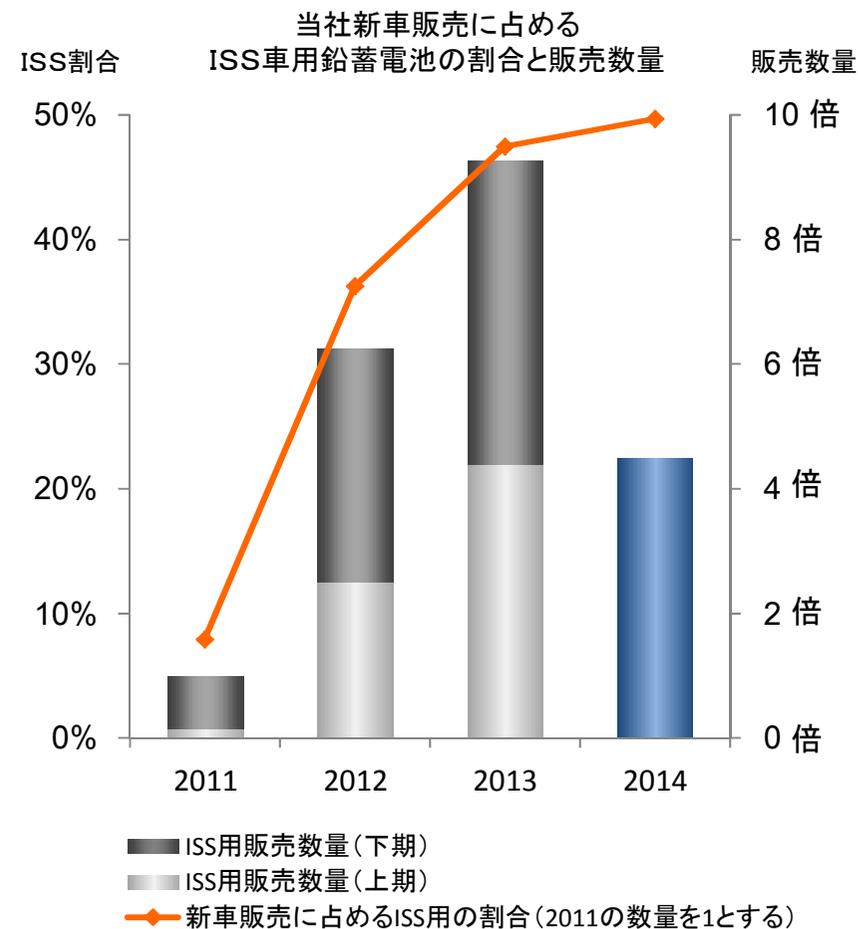
シェア **40%**



ISS車用鉛蓄電池



トヨタ製ハイブリッド車用鉛蓄電池

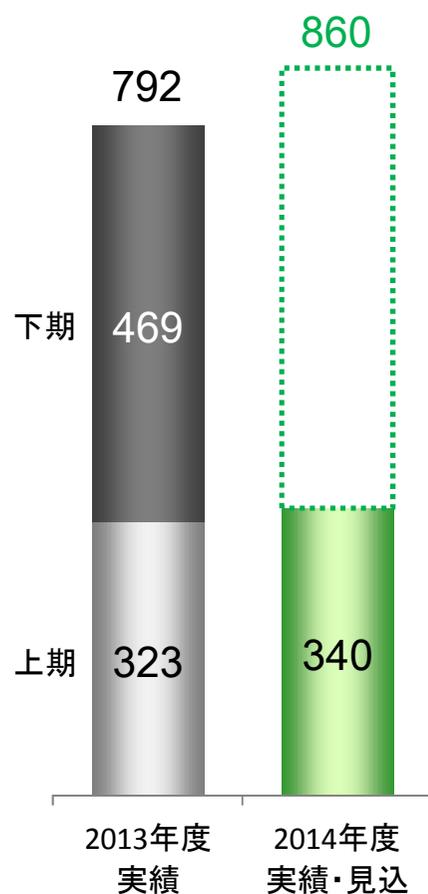


3. セグメント別業績

国内産業電池電源

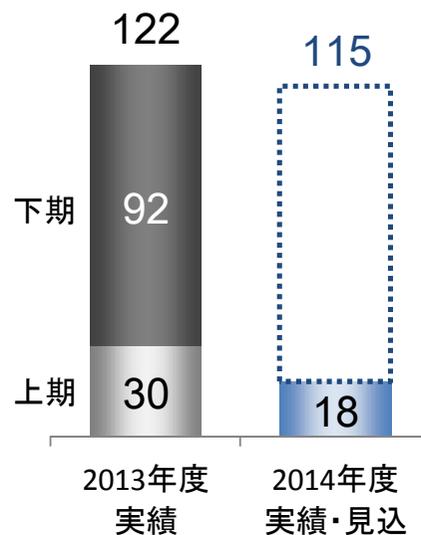
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度上期商況

- 携帯電話の基地局向け電源装置の販売は好調
- 太陽光発電設備用パワーコンディショナの販売は減少
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売は好調維持

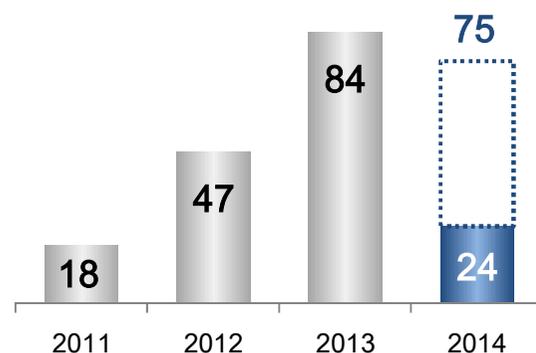
増減益要因

(億円)

数量	-5
鉛価格・売価	-5
人件費・費用等	-3

国内産業電池電源

➤ パワーコンディショナ販売状況



2014年度目標(売上高)
85 億円 ⇨ 75 億円

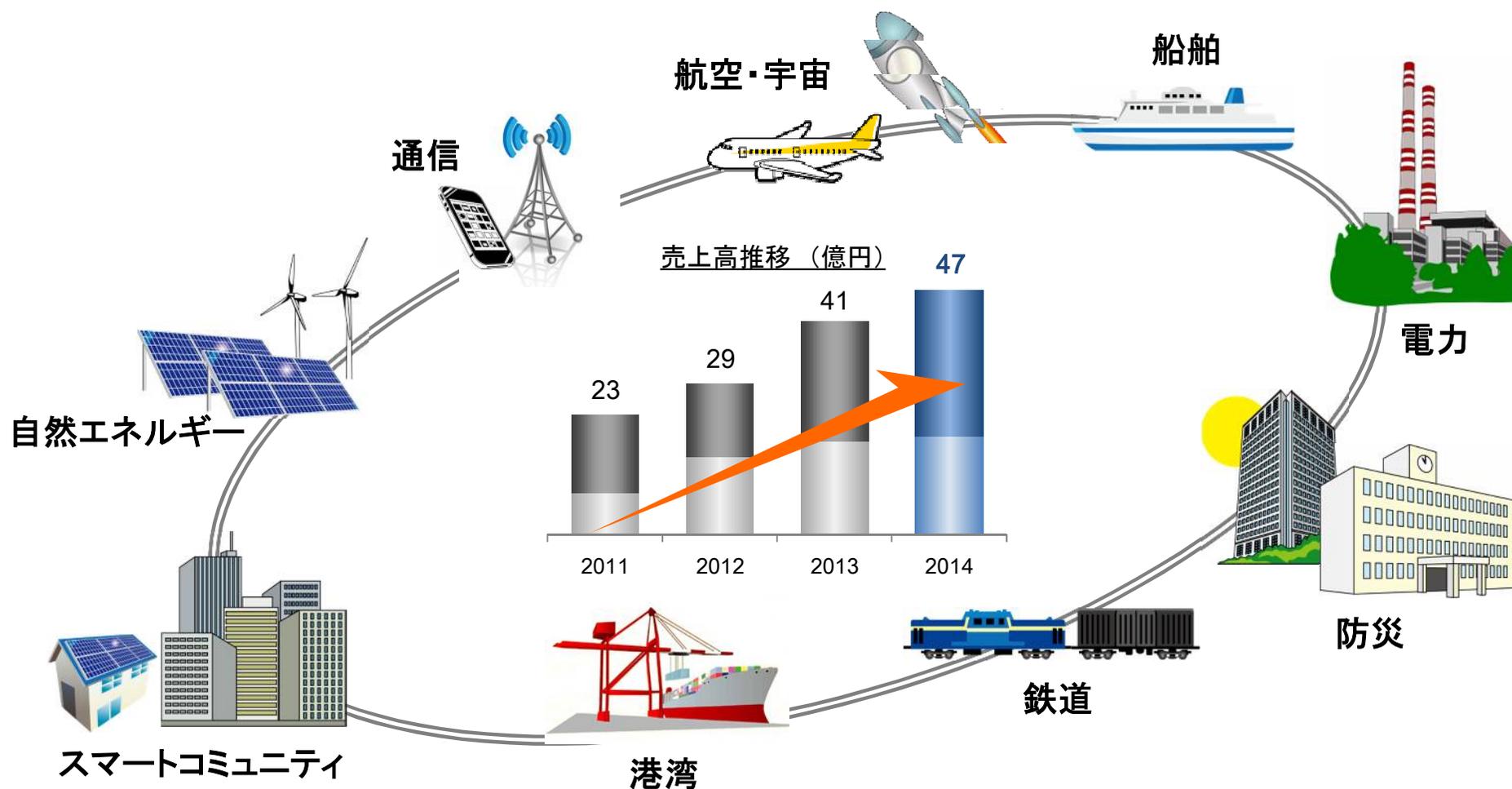
➤ 需要期に向けて受注生産品の引合・受注増加

- ✓ 防災無線システムデジタル化に伴い、電源装置の販売好調
- ✓ 原子力発電所の新規制基準への対応
- ✓ 携帯電話の基地局向け電源装置は好調維持

3. セグメント別業績

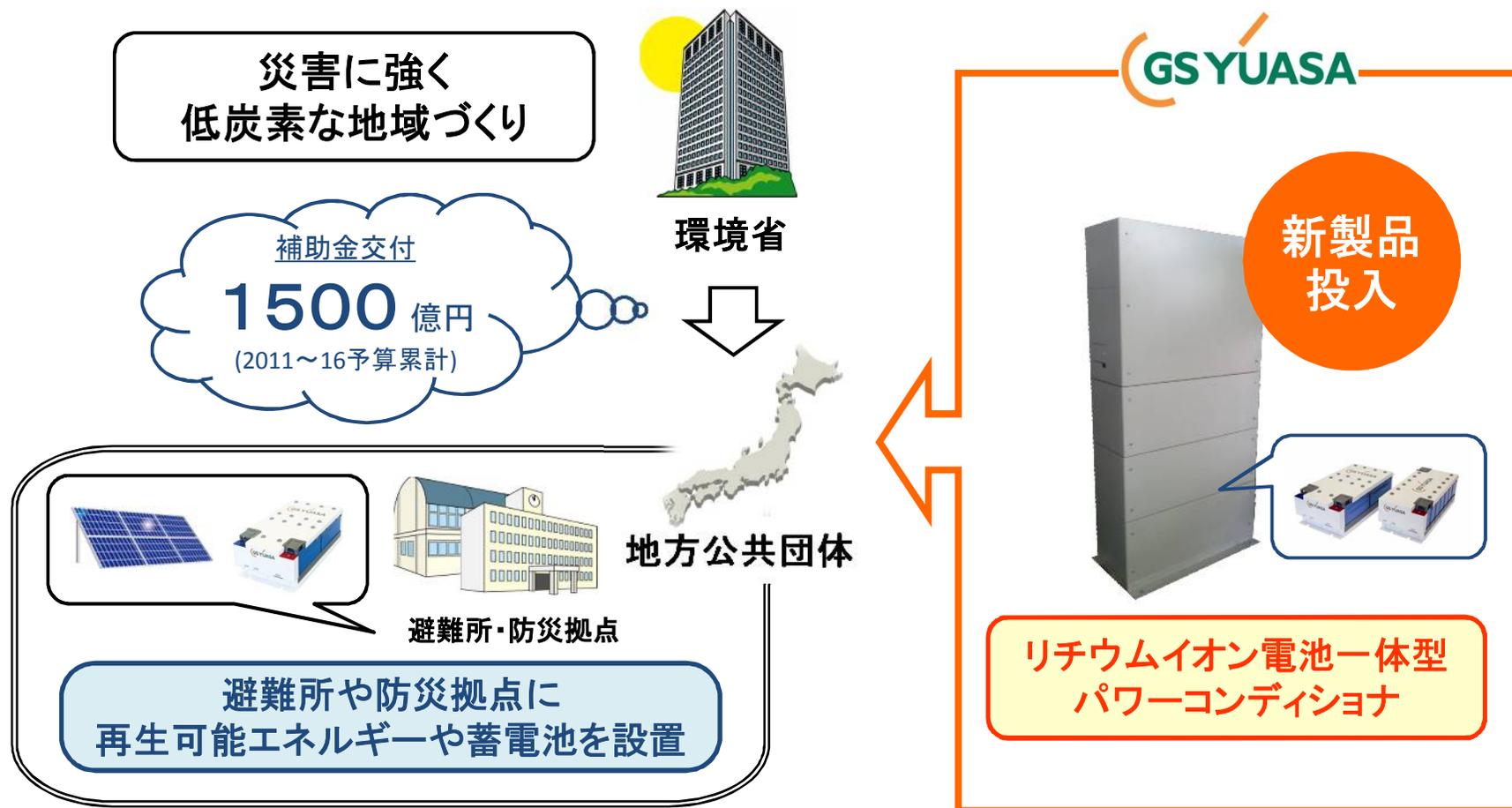
国内産業電池電源

➤ 産業用・特殊用リチウムイオン電池で新しい付加価値を創造



国内産業電池電源

➤ 環境省グリーンニューディール事業への取り組み

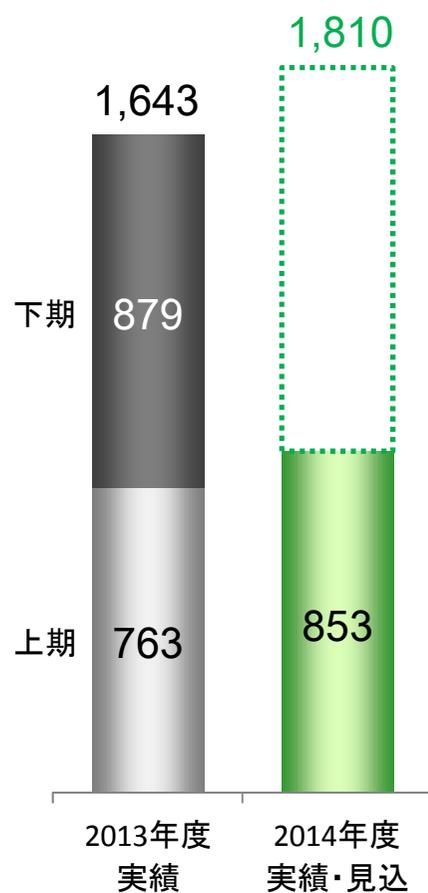


3. セグメント別業績

海外

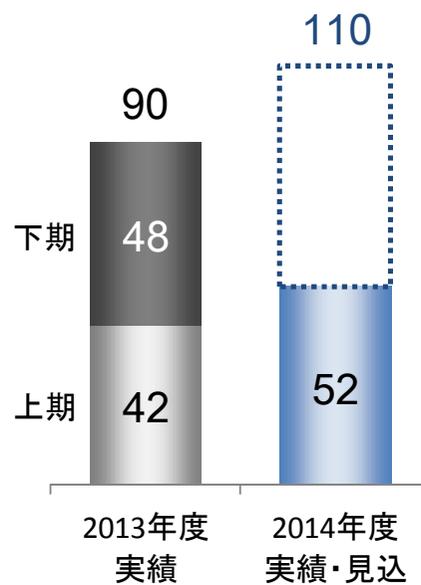
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度上期商況

- 前第2四半期よりタイのグループ会社を連結子会社化したことに伴う第一四半期分の計上
- 東南アジアを中心に販売増加
- 為替影響により増収

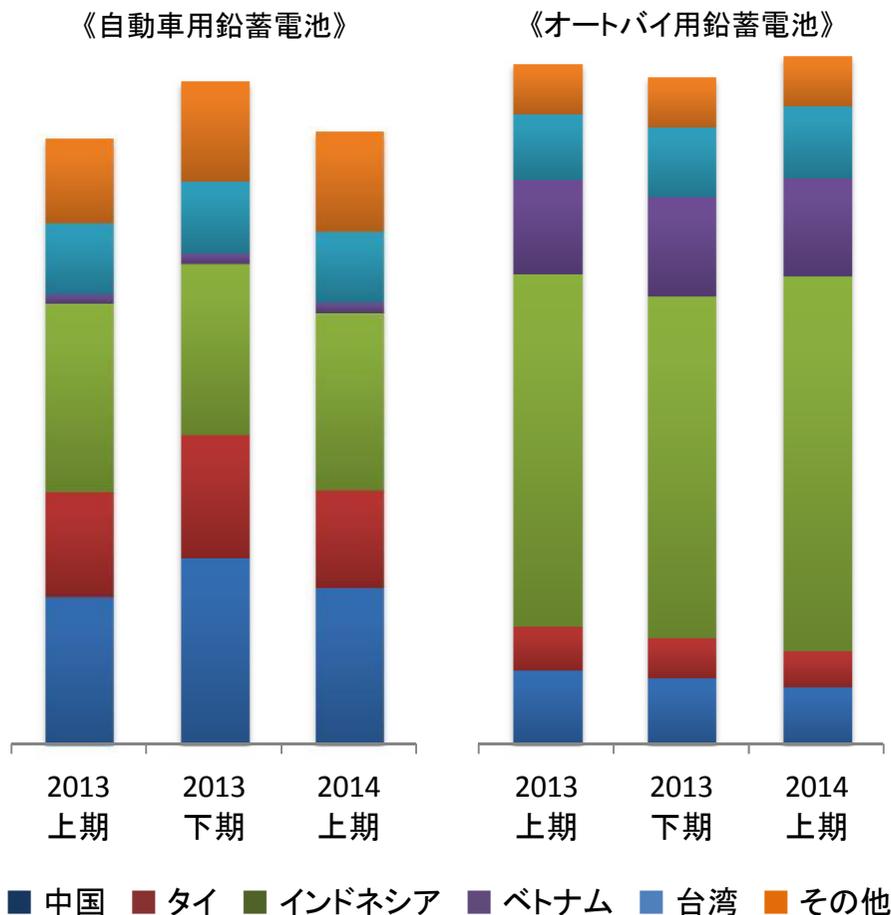
増減益要因

(億円)

鉛価格・売価	+12
人件費・費用	-4
サイアムGSグループ連結化	+2

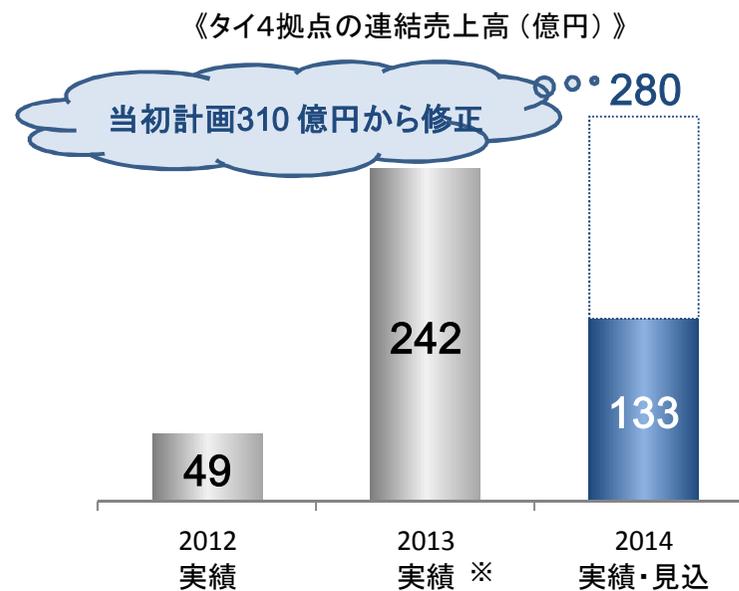
海外

➤ アジア・アセアン主要国の出荷量



➤ タイ国の状況

- ✓ 自動車用、オートバイ用鉛蓄電池ともに販売は減少。
- ✓ フォークリフト用鉛蓄電池の販売は好調



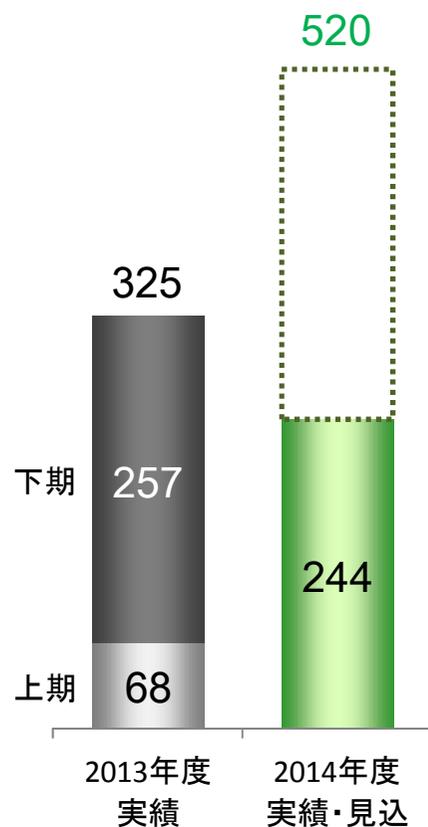
※ サイアムGSグループの連結売上高は9ヶ月分

3. セグメント別業績

リチウムイオン電池

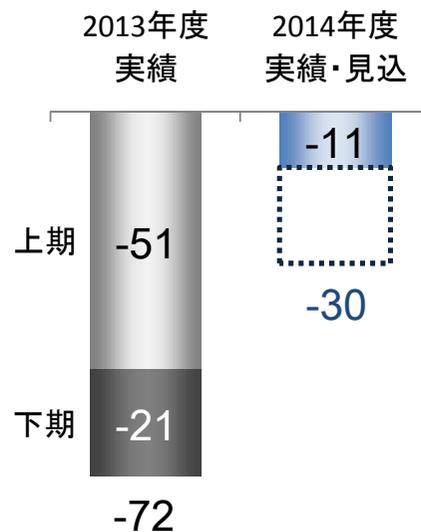
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



2014年度上期商況

- [ブルーエナジー]
ハイブリッド車向けリチウムイオン電池の販売増加
- [リチウムエナジージャパン]
プラグインハイブリッド車向けリチウムイオン電池の販売は好調維持

増減益要因

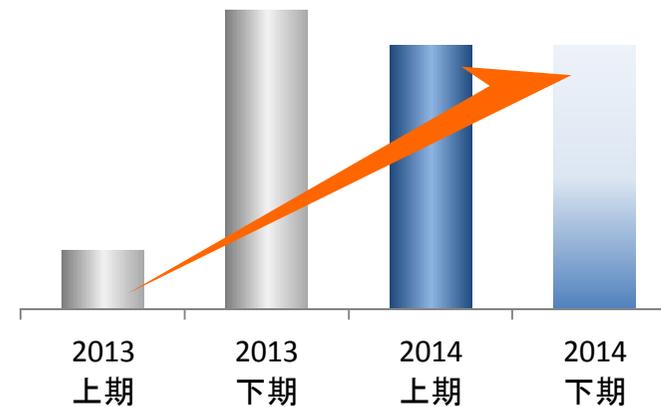
販売増加により利益改善

リチウムイオン電池

➤ リチウムエナジー ジャパン (LEJ)

- ✓ 複数のプロジェクトチームを設置して品質・生産性向上の取り組み強化
- ✓ 短期・長期的なコストダウンを目指しVE活動を推進

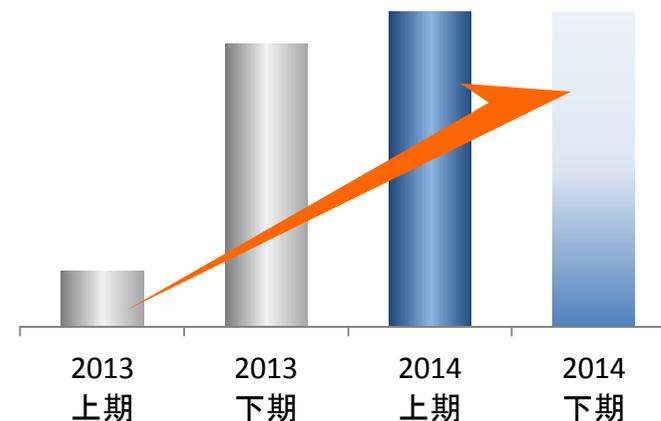
LEJ 販売個数



➤ ブルーエナジー (BEC)

- ✓ 生産性向上は順調に進捗しており、更なる改善を目指す
- ✓ 黒字体質が定着し、2014年度通期黒字化に向けて順調に推移

BEC 販売個数

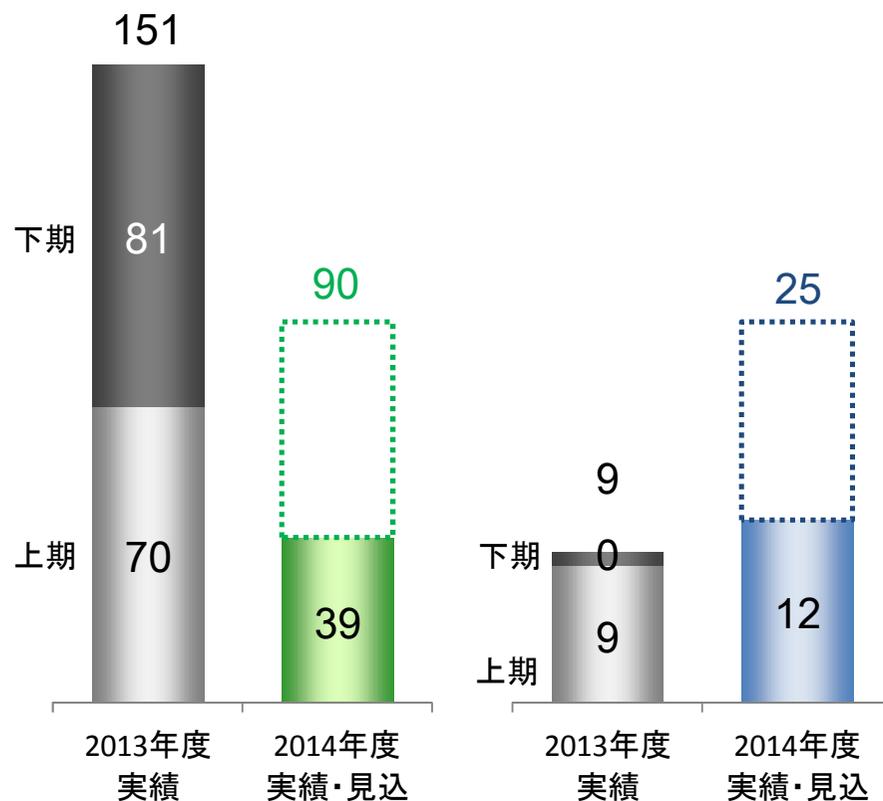


3. セグメント別業績

その他

売上高 (億円)

営業利益 (億円)



増減益要因

組織変更に伴い照明・膜事業を移管

全社費用削減

トピックス

産業用・特殊用リチウムイオン電池の納入事例

鉄道・重機械

- 日本車輛製造様
次世代電動式キャリア

New



- JR東日本様
蓄電池駆動電車
- 近畿車輛様
自己充電型バッテリー電車
- 東武鉄道様
上福岡き電区分所
- JR貨物様
ハイブリッド入換機関車

変電所・発電所

- チリ国
コクラン石炭火力発電所
6,300 kWh
- 九州電力様
芦辺変電所
1,600 kWh



- A電力様
1,000kWh
- B電力様
1,000kWh

Coming
Soon

航空・宇宙・衛星

- 宇宙航空研究開発機構様
H-2Aロケット

New



©JAXA

- 気象庁様
静止気象衛星ひまわり8号
- 宇宙航空研究開発機構様
H-2Bロケット
宇宙ステーション補給機
- ボーイング様
787ドリームライナー

New

4. 連結業績予想

(億円)

	2013年度 通期	2014年度 通期	増減	
売上高	3,480	3,800	+320	
営業利益 (営業利益率)	182 5.2%	250 6.6%	+68 +1.4P	
経常利益	203	260	+57	
当期純利益 (当期純利益率)	100 2.9%	130 3.4%	+30 +0.5P	
1株当たり 当期純利益	24.18円	31.49円	+7.31円	
配当	8円/株	10円/株	+2円/株	
前提条件	国内鉛建値	26.98万円/t	28万円/t	-
	LME	2,142US\$/t	2,200US\$/t	-
	為替	97.99円/US\$	105円/US\$	-


 直近に公表されている業績予想からの修正無し

4. 連結業績予想

セグメント別業績

(億円)

	2013年度 実績		2014年度 当初計画		2014年度 修正計画		2014年度 2Q累計	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)
国内自動車電池	569	33 (5.8)	520	30 (5.8)	520	30 (5.8)	239	5 (2.2)
国内産業電池電源	792	122 (15.4)	860	125 (14.5)	860	115 (13.4)	340	18 (5.2)
海外	1,643	90 (5.5)	1,810	110 (6.1)	1,810	110 (6.1)	853	52 (6.1)
リチウムイオン電池	325	-72 (-22.3)	520	-30 (-5.8)	520	-30 (-5.8)	244	-11 (-4.6)
その他	151	9 (6.2)	90	15 (16.7)	90	25 (27.8)	39	12 (31.4)
合計	3,480	182 (5.2)	3,800	250 (6.6)	3,800	250 (6.6)	1,715	76 (4.4)

5. 貸借対照表

(億円)

	2014/3末	2014/9末	増減額		2014/3末	2014/9末	増減額
流動資産	1,682	1,568	-114	負債	1,858	1,652	-206
・受取手形及び売掛金			-97	・支払手形及び買掛金			-74
期末に積み上がった売上債権の回収				・設備関係支払手形			-35
・有価証券			-26	・借入金			-19
・たな卸資産			+29	・未払金			-39
				・未払法人税			-44
固定資産	1,722	1,702	-20	純資産	1,547	1,619	+72
・有形固定資産			-43	・利益剰余金			+12
減価償却費が設備投資額を上回った				・その他有価証券評価差額金			+12
・投資有価証券			+24	・為替換算調整勘定			-17
株式時価アップ +17				・少数株主持分			+59
持分法利益 +11							
資産	3,405	3,271	-134	負債・純資産	3,405	3,271	-134

	2014/3末	2014/9末
自己資本比率	41.0%	43.1%
ROE(自己資本利益率)	7.5%	-

6. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2013年度 2Q累計	2014年度 2Q累計	2013年度 通期実績	2014年度 通期計画
設備投資額	78	46	186	170
リチウムイオン電池事業	27	8	69	30
海外事業	24	19	57	60
国内既存事業、その他	27	19	60	80
減価償却費	58	75	129	140
内、リチウムイオン電池	22	30	50	50
研究開発費	32	30	65	70
(売上高研究開発費率)	(2.1%)	(1.7%)	(1.9%)	(1.8%)

第2四半期実績

(億円)

営業C/F	55	投資C/F	-86	財務C/F	3
・税金等調整前利益	85	・有形固定資産取得	-88	・借入金の減少	-15
・減価償却費	78			・配当金の支払	-41
・売上債権の減少	94			・連結子会社増資に伴う 少数株主からの収入	+64
・たな卸資産の増加	-36				
・仕入債務の減少	-82				
・法人税等の支払	-73				
現金および現金同等物の残高					
	期首	234		第2四半期末	201
フリーC/F ※1	-31	キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年) ※2		14.6	

ポイント

- 営業C/Fは前年同期33億円からプラスとなり55億円を確保した。
- 有形固定資産の取得によりフリーC/Fはマイナス31億円となったが手許資金で賄った。
その結果、キャッシュの第2四半期末残高は201億円となった。

※1: 営業活動によるC/Fと投資活動によるC/Fの合計 ※2: 有利子負債(リース債務含む)/営業活動キャッシュ・フロー

通期見込み

営業C/F	210
投資C/F	-220
財務C/F	-30
現金及び現金同等物の期首残高	234
現金及び現金同等物の期末残高	194
フリーC/F ※1	-10
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年) ※2	3.7

※1: 営業活動によるC/Fと投資活動によるC/Fの合計 ※2: 有利子負債(リース債務含む)/営業活動キャッシュ・フロー

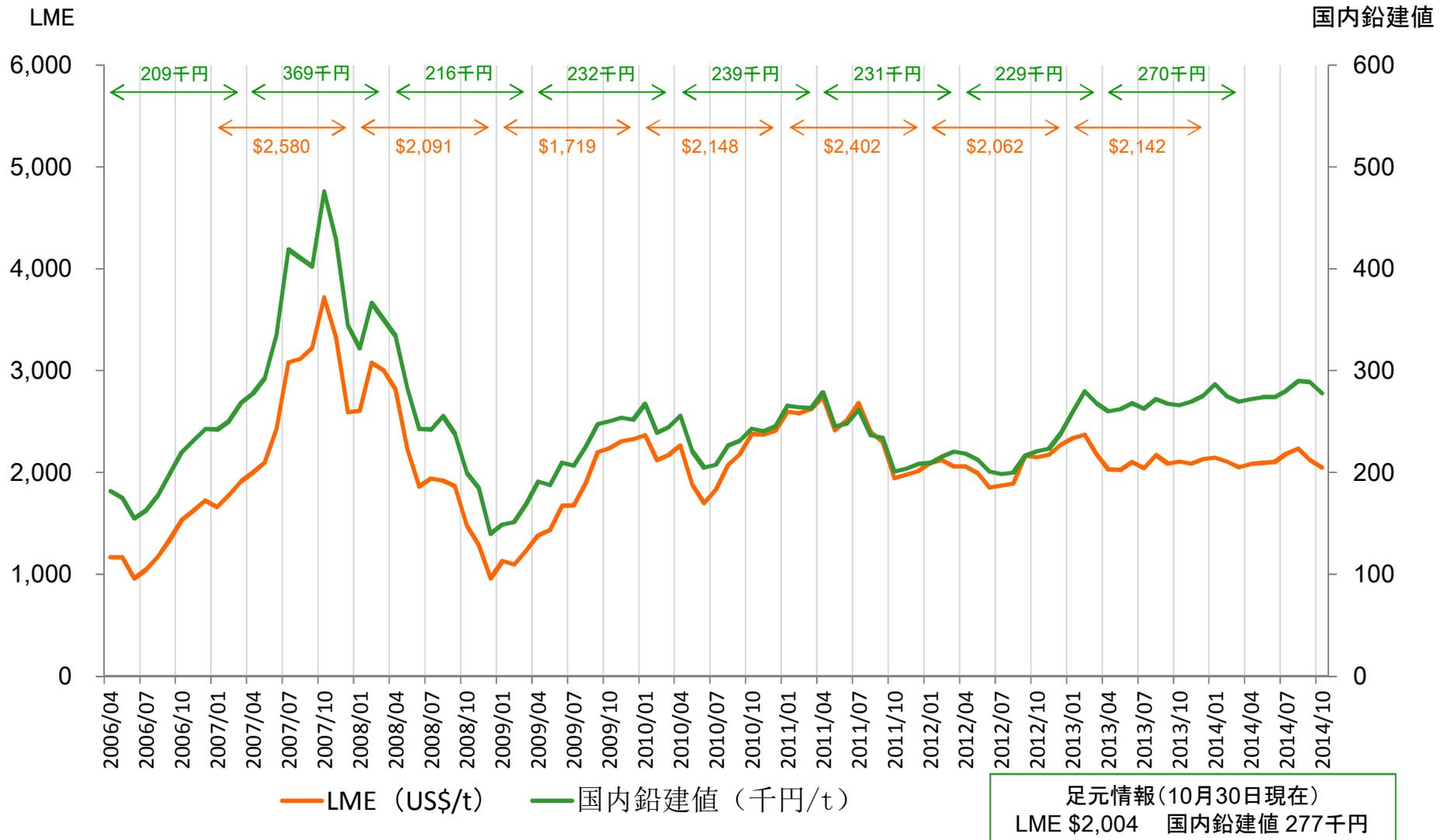
本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



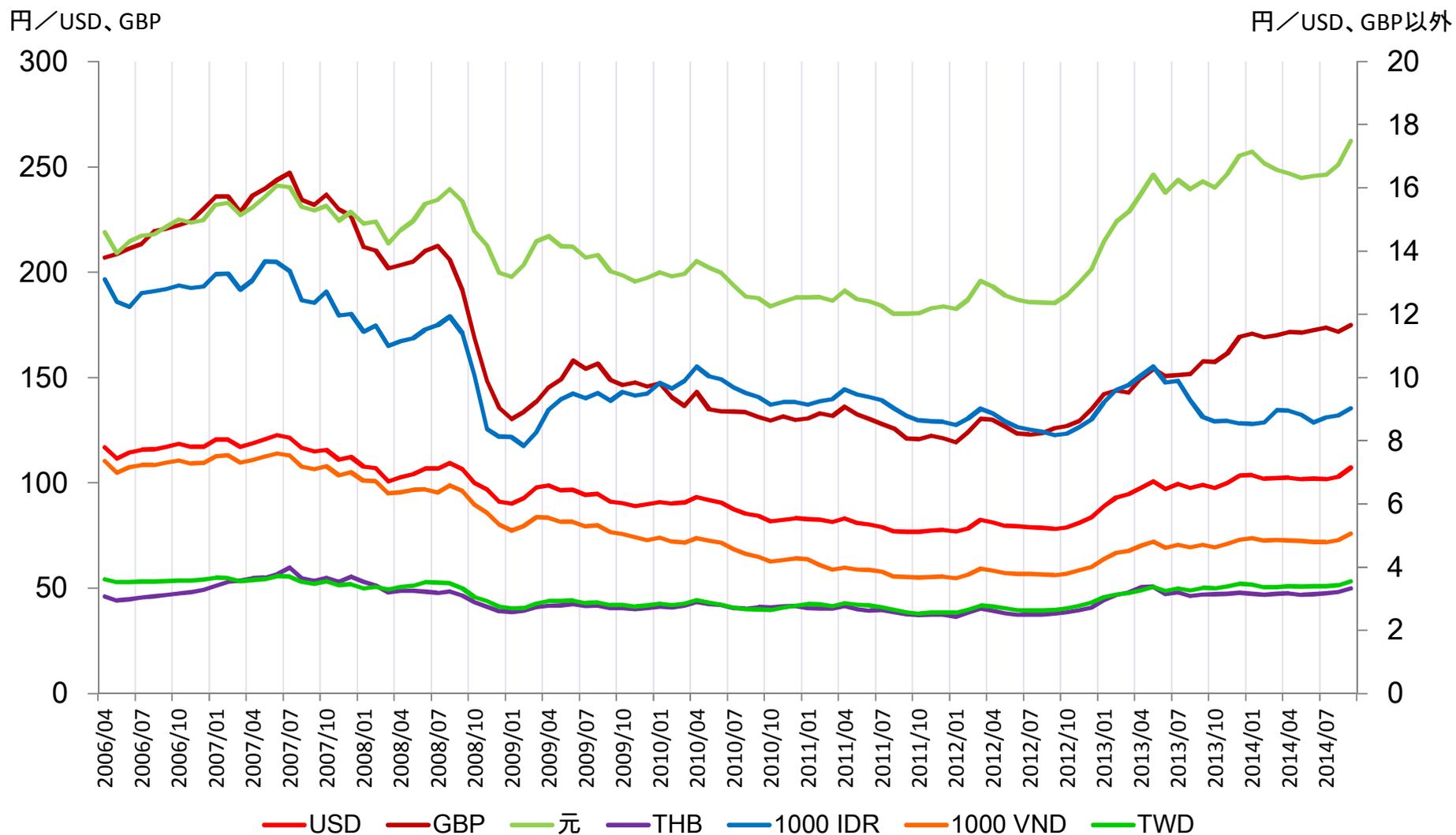
連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室(広報) 中野 宏治 ・ 大道 由加 ・ 柿島 辰年
Tel : 075-312-1214
<http://www.gs-yuasa.com/jp>

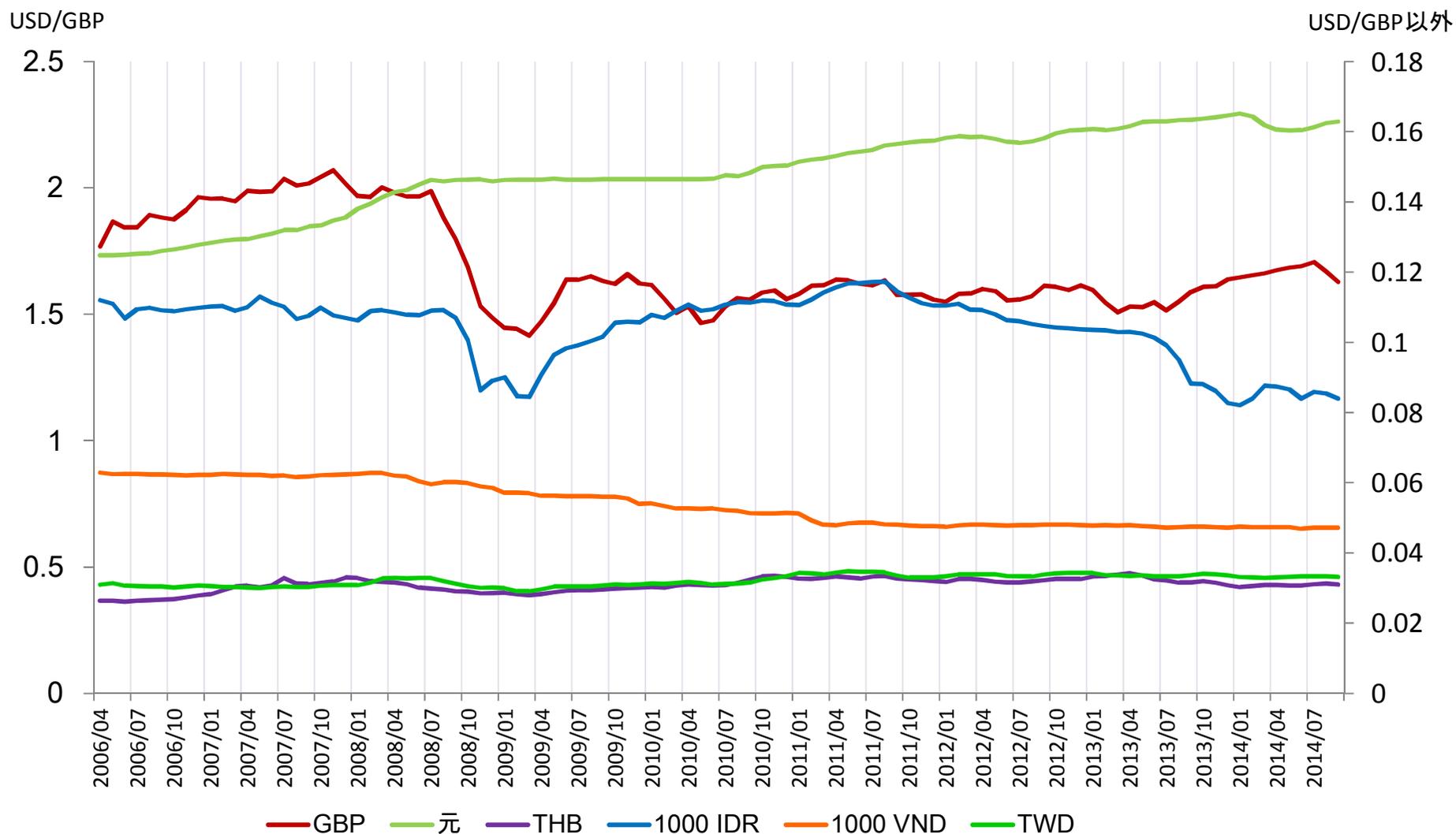
原材料価格の推移



為替の変動（日本円 対 主要通貨）



為替の変動 (USD 対 主要通貨)



有利子負債、D/Eレシオ推移

